

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
 北海道開拓記念館内  
 電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第41回北海道博物館大会 (札幌大会) 終える

平成14年度北海道博物館大会は、7月11日(木)、12日(金)の両日、札幌市で開催された。

大会一日目は、北海道開拓の村ビジターセンターを会場に総会、シンポジウムなどが行われた。総会では、平成14年度事業計画、予算案などが可決され、平成15年度大会の開催地が枝幸町に決定された。表彰式では、北海道立旭川美術館ボランティア常磐会および山原良一氏(北海道立オ

ホーツク流氷科学センター友の会流氷倶楽部所属)の両名が受賞の栄を受けられた。その後、日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏の特別報告「日本博物館協会の主要事業と最近の動向について」をもって、午前の部が終了した。午後は、札幌国際大学観光学部長奥平忠志氏から特別講演「博物館と観光」があり、続くシンポジウムでは「開かれた博物館をめざして」をテーマに、4人のパネラーからの報告、全体討論が行われた(詳細は次頁)。

二日目は、北海道開拓記念館、北海道埋蔵文化財センター、自然ふれあい交流館を見学し、二日間にわたる全日程を終了した。

## 道博協ミュージアム・マネージメント研修会 “10/24・25富良野市で開催”

本年度のミュージアム・マネージメント研修会が10月24日(木)・25日(金)、富良野市で開催されることになりました。この頃になりますと博物館活動も一段落します。富良野市は北海道の中心に位置しますから道内どこからも参集しやすいです。数多くの方々には是非ともご参加いただきたいと願っております。

今回の研修テーマは「博物館とエコ・ツーリズム」で、全国的に静かなブームになっているエコ・ツーリズムと博物館の関わりを研究・討議することにしました。今年は「国際エコ・ツーリズム」の年でもあります。地球規模の自然破壊が顕在化する今日、「いかにして自然環境を守り、どのように自然と共生すべきか」が21世紀の人類最大のテーマであり、博物館は自然学習さらには環境教育の一翼を担う教育機関の一つとしてその実践的な取り組みが急務な課題でもあります。

第一日目の研修会では、まず北海道とヨーロッ

パのエコ・ツーリズムに精通しておられる小川巖氏(エコネットワーク代表)の基調講演、さらに中川町と富良野市の実践例の報告を受けて、全体で「博物館とエコ・ツーリズム」の関わりや課題を考えたいと思います。

第二日目は9月1日にオープンしました「富良野市博物館」とその特別展「写真家・操上和美の世界」を観覧したのち、北海道の典型的な針広混合林の森として全国的に知られる「東京大学北海道演習林」をバスで巡検します。なお、詳しい日程については後日、各館園にご案内いたします。

(富良野市生涯学習センター 所長 杉浦 重信)



富良野市博物館特別展「写真家・操上和美の世界」  
 10/1-11/10

## 第41回北海道博物館大会に参加して ～手だけでなく足も～

札幌市の北海道開拓の村を会場として開催された、平成14年度の北海道博物館大会。概要は前頁に記されているので、ここではシンポジウムを中心に報告する。シンポジウムは「開かれた博物館をめざして／生涯学習・学校・地域～それぞれの視点から～」をテーマとして、三野紀雄氏（北海道浅井学園大学教授）の司会のもと、4人のパネリストからの報告が行なわれた。

①「高齢社会における博物館のあらたな試み～生涯学習の視点から～」金山喜昭氏（法政大学文学部助教授）

金山氏からは、以前勤務していた野田市郷土博物館で実施された「老人ホーム移動博物館」について紹介された。移動博物館という対象として学校がまず思い浮かぶが、高齢者に対するニーズも忘れてはならず、博物館もアプローチによっては「心のケア」ができることが報告された。

②「学校教育との連携をめざして～学校の視点から～」村上孝一氏（北海道開拓記念館教育振興課長）

北海道開拓記念館では、「総合的学習の時間」「完全週5日制」などの近年の学校教育の変化に対応して、「出前授業」「土曜こども講座」といった新しい活動に力を入れている。その成果のあらわれとして、常設展示の入場者数は年々減ってきているが、反対に講座や体験学習室の利用者数は増加したことが報告された。その一方で学校からは「人数や時間の制約から学校から出かけるのは難しい。記念館が学校にどんどん来てほしい」という要望が挙がっているようである。

③「ボランティアによる常設展示リフォームを通して～地域の視点から～」宇仁義和氏（斜里町立知床博物館学芸員）

知床博物館では、常設展示の更新が市民のボランティアの手によって進行中である。来館機会の提供と展示更新の一石二鳥の効果を期待したもので、これまで博物館に来る機会の少なかった30～40代の男性も引き寄せることに成功している。また堅穴住居の模型を作るのに建築士の方

が参加するなど、地域の人材活用もされている。

④「体験学習事業をとおして～地域の視点から～」中島宏一氏（北海道開拓の村学芸員）

北海道開拓の村では、入村者数の減少への対策として、夏期に小学生を対象とした事業、ボランティアの活用について報告された。

これらに加えて、学校教育との連携について、あるいは博物館活動への市民の参加例について、会場からもいくつかの報告がつけ加えられた。

今回のシンポジウムによって浮かびあがってきた博物館の課題のひとつは、以前から言われていることではあるが、「博物館も受け身ではいけない」ということだろう。「展示さえあれば博物館として成り立つ」などと思っている人はいないだろうが、博物館とは建物や展示があってその中で活動していれば良いということでは済まない状況にすでになってきている。博物館の外には老人ホームや学校以外にも潜在的なニーズはたくさんある。そこへただ手を差し伸べるだけでなく、自ら足を運んでいくだけの価値はあるに違いない。

石狩市の博物館は未だ「開設準備室」で、何をするにもまず場所の獲得から始まり、常に困難がつきまとう。しかし館外の活動となればそのハンディは小さくなり、建物のある博物館に負けない活動も可能ではないだろうか。その考えを実践するため、教育普及活動を中心としたいろいろな企画を来年度に向けて考案中である。企画倒れや空振りになるものもあるかもしれない。しかしアイデアを大事にして今の石狩でもできることを見つけ、未開のフロンティアに足を踏み込んでいこう。

（石狩市教育委員会 志賀健司）



「シンポジウムの様子」

石狩・後志・  
空知地区  
News

## 博物館実習所感 — 学生を送り出す側から —

「今年も博物館実習の季節がやってきた。」毎年、学生の実習館の手配を終えると、つくづくそう思う。実習前のオリエンテーションでの教育内容を、より「理解」可能なものにするよう頭を悩ますからである。知識や技術を伝えるのであれば問題はない。そうではなく、生活上の言うなれば「躰」に関わる部分での問題点を、彼らが「理解」し「納得」する説明が必要となるからである。このような事を考えるのも、筆者が「年をとった」せいと言えはそれまでであるが（多分にその側面はあると思うけれど）。

例えば「～は（指導して下さる学芸員の先生に対して）失礼にあたるのでははいけない」というマニュアル的指導では、知識として「理解」しても理由がわからないために同様の行為を繰り返す可能性がある。極端な例ではあるが、挨拶や返

事の仕方という社会生活上の基本的な態度についても身につけていない学生もおり、「実習中何故注意されたかわからない」という学生には、「納得」するまで対応するようにしている。このような経験を参考に、くだんのオリエンテーションではOB・OG達のこれまでの失敗談を率直に伝え、「あなたが指導する立場であれば、どう感じますか？」という質問を投げかけることにしている。反応はというと、例年、学生達はげんなりした顔で「先生も大変ですね」と異口同音言うのであるが…。しかし、この説明の仕方を取るようになってから、思いもよらないようなトラブルが減ったことも事実である。恐らく「常識」の範囲が少しずつではあるが変わってきているのであろう。しかし「若さ故の驕慢」とさえいえない世間知への無知が、実習の場で初めて露になり、そこから彼らは多くの事を学んでいるはずである。ご指導頂いている学芸員の皆様に感謝するとともに、今年も学生達が知識以外の点でも成長することを期待している。

（北海道教育大学岩見沢校 助教授 百瀬 響）

道南ブロック  
News

## 「平成14年度道南ブロック博物館施設 等連絡協議会」総会、研修会開かる

平成14年8月22、23日両日にわたり、榎法華村総合センターを会場に21名の協議会会員およびオブザーバーの参加により平成14年度道南ブロック協議会総会、研修会が開催されました。

平成3年協議会設立以来これまで、渡島、檜山地方の軸として函館市、江差町がその主導的役割を担ってきましたが、近年当会がようやく軌道に乗ってきたことと相まって世代交代を図るべく役員刷新が懸案とされてきました。これを受け今回の総会では役員改選がなされ、会長江差町、副会長知内町、大成町、理事七飯町、熊石町、監事函館市、八雲町、事務局知内町の新体制で運営することとなりました。また、事業計画におよんでは、移動展覧会など会としてもっと地域に形として残る事業内容、現実的な事業内容を検討すべきではないかなどの意見が交わされました。

研修会は、恵山、水無温泉等で周知のとおり海と緑に囲まれた御当地榎法華村にふさわしい「とっておきの話」二題が用意されました。榎法華村

灯台ファミリー博物館館長中村守氏による「人と灯台と榎法華の自然」では、恵山岬地域総合開発計画「ほっけの里構想」に基づく灯台ファミリー博物館建設の経緯と運営の実態が紹介され、近年新たな村おこしの切り札としてホテルが建設され観光施設と文化施設との相乗効果を図りながら榎法華村ならではの地域に根ざした博物館の在りようが具体的に示された興味深い報告でした。道立函館美術館学芸課長柴勤氏の「道南を描く／美術と自然」は、道南地方にゆかりのある画家田辺三重松、池谷寅一、木村捷司、瀬戸英樹の作品を具体的に自然・生活を縦軸に、緻密・大づかみを横軸にして個々の画家にみる表現の多様性をスライドを通しその作風を分析していく内容は、道南地方の風土が育んだ人と自然の関わりを身近に説いてくれるものでした。

さわやかな夏風に吹かれ恵山岬にたたずむホテル恵風（ケイブ）での懇親会、二日目の灯台ファミリー博物館、水無温泉の巡見により、一層私たちをほっけの里のリピーターにさせたことは言うまでもありません。

（市立函館博物館 長谷部 一弘）

道北地区  
News

## 「補完としてのコンピュータによる展示」の提案

増毛町総合交流促進施設元陣屋では8月の3週間、暑寒別岳の自然をテーマにした特別展を企画しました。しかし構成上どうしても写真やパネルの展示が多くなってしまったため、変化をつけようと今回はコンピュータを活用した企画を模索してみました。以前ならば非常に高価だったツールやソフトウェアが最近では安価に手に入ることから、時間をかければそれなりに見栄えのするものを作成することができるようです。

まず、暑寒別岳の映像をインターネットでライブ中継してみました。手持ちのカメラとパソコンへ映像を入力する機材（1万円以内で購入）と無料のソフトウェアを使用し、1分おきに現在の映像を元陣屋のホームページで確認できるようにしてみました（映像は曇り続きのため、期間中2日ほどしか山が見えませんでした）。また、会場入り口では、高山植物や山の風景の写真を次々表示させるスライドショーを設置しました。単純に画像が切り替わるだけなのですが、訪れた人の足を

とめさせる効果があるようです。

CD-ROMで提供されている数値地図を利用して、空中から見る暑寒別岳の映像も作成してみました。これも地図とソフトウェアは1万円かかっていません。山の上空をぐるぐる回る映像をパソコンでビデオCDに加工し、知人から寄贈を受けたビデオゲームから再生できるようにしました。ボタン一つで映像が流せて、巻き戻しなども必要ないので便利です。この機械もヤフーオークションでは2千円程度で売られています。

一問ごとに山を登っていくという設定のクイズゲームには「クリックアンドプレイ」を使用しました。ディレクターなどの高価なオーサリングソフトもありますが、クイズ程度であれば様々なフリーのアプリケーションが存在します。

毎年恒例で一定率の予算減額を課せられている当館のような施設は少なくないと思います。限られた予算の中でどれだけ工夫できるのか、所蔵資料以外にもそういった技術情報をさまざまな施設間で共有できたら、違った意味で施設の活発化につながるのではないかと感じる日々です。

（増毛町教育委員会 学芸員 小野卓也）

日胆地区  
News

## 開町90年・町制施行40年 穂別町立博物館20周年 記念講演・討論会 「化石の里(まち)の博物館」

25年前の長頸竜化石「ホベツアラキリュウ」の発見がきっかけとなって開館した穂別町立博物館は、今年20周年を迎えます。これまでの20年を振り返り、当館のこれからを考えようと、開館記念日である7月20日に記念行事を実施しました。

記念講演には穂別特有のカメ化石を研究されている平山 廉氏（帝京平成大学）を招き、「穂別のカメ化石と古生物研究の最近」と題して講演頂きました。来賓として、開館以前から現在まで指導頂いている赤松 守雄氏（北海道開拓記念館）を招き、きっかけとなった発掘の様子や、当館に寄せる思いを語って頂きました。また、開館以来これまでの学芸員、鈴木 茂氏、地徳 力氏、川上源太郎氏、そして現任の櫻井が顔を揃え、それぞれ「化石から見た穂別」（鈴木氏）、「地質から見た穂別」（川上氏）、「化石と地質の博物館」（地徳氏）、「地域に根ざした博物館」（櫻井）と題して、穂別の特徴、博物館の特徴、そして最近の博物館活動

について紹介しました。

当館にゆかりのある方々をはじめとして、町内外から70名を超える方々に集まって頂きました。時間等の都合から、会場も巻き込んで討論会という形には残念ながらなりませんでしたが、最後は講演者の方々から当館に対する思いと期待をそれぞれ語って頂きました。赤松氏から『穂別町立博物館は、道内における町村レベルの博物館では、草分け的存在であり、原点である』との言葉も頂き、当館の歴史を改めて振り返るとともに、これからの役割についていろいろと考える、とても良いきっかけとなったと感じています。

（穂別町立博物館 学芸員 櫻井 和彦）



記念講演・討論会のようす。

右から、平山 廉（帝京平成大学助教授）、川上 源太郎、地徳 力、鈴木 茂（以上、当館元学芸員）、櫻井（現学芸員）。2002年7月20日、穂別町民センターにて。（敬称略）

道東3管内  
News

## 帯広百年記念館第25回特別企画展 「120年より前の帯広」を開催

今回の特別企画展は、1883（明治16）年に晩成社が帯広に入植してから120年の節目を迎えた帯広市の「開拓120年記念事業」の一環として開催しているもので、和人が入植する以前に帯広・十勝で営まれていた人びとの生活・文化を、遺跡の発掘調査や、アイヌ文化の調査・研究の成果をもとに紹介しています。

展示は『プロローグ』、『遺跡が語る大昔の帯広・十勝』、『アイヌ文化』の3つのコーナーで構成されています。

『プロローグ』では、120年より前の歴史をどのように調べるのかをパネルで紹介しています。

『遺跡が語る大昔の帯広・十勝』では、「旧石器時代」、「縄文時代」のコーナーに分け、それぞれを代表する遺跡の出土品やパネル、模型などを使って解説しています。また、復元した両時代の石器を実際に触れたり使うことができる「体験コーナー」も併設し、好評を得ています。

『アイヌ文化』コーナーでは、「川での暮らし」、「山野での暮らし」、「コタンでの暮らし」、「カムイとの暮らし」に分け、帯広・十勝のアイヌ文化を紹介しています。

また、展示と関連した観察会「アイヌ語で自然観察」・シンポジウム「自然とアイヌ文化」（9月29日）、講演会「遺跡が語る大昔の帯広・十勝」（10月19日）を開催します。

会期：9月14日～11月10日（月曜休館、月曜が祝日の場合はその翌日）

会場：帯広百年記念館（帯広市緑ヶ丘2番地）

入場：無料

道東3管内博物館施設等連絡協議会のお知らせ

平成14年7月1日付帯広市の人事異動に伴い、当会の会長を佐々木克弘（帯広百年記念館館長）が務めることとなりましたのでお知らせいたします（事務局：帯広百年記念館）。

また、平成14年度博物館交流推進会議を、浦幌町教育文化センターを会場に、10月3～4日に「博物館と学校」をテーマに開催いたします。

（帯広百年記念館 学芸員 北沢 実）

網走管内  
News

## 網走管内博物館連絡協議会 平成14年度総括研修（北見）報告

8月23日に網走管内博物館連絡協議会の総括研修が北網圏北見文化センターで開催され、約40名の参加者があった。

はじめに、ピアソン会の池田晶信氏が「サポート団体と博物館ーピアソン夫妻とピアソン会活動ー」と題し、1888（明治21）年宣教師として来日、1914（大正3）年から帰国までの15年間は北見市を中心に伝道を行なったピアソンとアイダ婦人の功績、ピアソン会の原状と問題点及び将来への展望などを講演した。

人には、それぞれの歴史があり、その人生を顕彰することは、「無名の偉人」の発見、地域文化の掘り起しにつながることを知ることができた。

講演後、同館で開催中であった「日本近代彫刻の流れ展」のギャラリーツアーが行なわれた。

日本の近代彫刻に大きな影響を与えたロダン。一時期ロダンの助手を勤め、師に「君は私を超えた」と言われたプールデル、ふくよかで温かみをもつ作品を得意としたマイヨール。欧米の彫刻美

術を吸収し、日本近代彫刻の先駆者となった荻原守衛、高村光太郎、戸張弧雁などの繊細な塑像作品。動く物や、具象と抽象の境目も曖昧に様々に広がりを見せる彫刻芸術を鑑賞した。

展覧会をとおして、近代日本の彫刻の流れを知ることができたとともに、彫刻の原状から、様々な表現方法が現れ、これからも楽しみな芸術分野であることを再認識できた。平面作品とは赴きを別とする立体的な芸術作品を身近に感じることができたひとときであった。

（網走管内博物館連絡協議会 広報担当幹事

紋別市立博物館 学芸員 小番 宗幸）



学芸職員部会  
News

## 学芸職員部会の動き

本年6月6・7日に開催された学芸職員研修会  
は本会が設立されてから25年、25回目の研修会  
でした。学芸職員部会の成り立ち、その後の経過  
については先の道博協ニュースに掲載された通り  
だが、『地域学』をテーマにしたころから、土地  
の人たちの多くの協力と温かいもてなしを得て、  
その『地域』を実感する研修会になったのではと  
思います。6月の利尻町での研修会もそうでした。

いま、学芸職員部会では発会25年記念誌の準  
備に入っています。会員一人一人による誰もが使  
える、役に立つ地域情報誌のような冊子にしたい  
と考えています。A4版、本文150ページ程度、  
単色刷りの体裁です。具体的な内容については、  
部会の役員会や総会でも多くの提案がありました。  
施設紹介以外でしたら何でも良いのでは、という  
考えもありましたが、基本的には各地の施設で活

躍している会員の専門分野からの情報発信（例え  
ばその地域固有の植物、動物、古生物、習俗そし  
て産業や人物等々）、特色ある博物館活動、広域的  
な調査活動とその成果、などが掲載されることに  
なります。

執筆要領の送付が予定より遅れていますが、近々  
会員各位並びに関係者へお送りいたします。

平成15年度部会職員の研修会は、根室市を予  
定しております。平成9年度、函館市から始まっ  
た「地域学のススメ」と題した研修会は足寄町、  
留萌市、余市町、平取町、利尻町と道内各地を巡  
ってまいりました。それぞれの開催地での研修は  
私たちにとって得がたい体験と知識の充足に繋が  
ります。多くの他地域情報を収集すること、それ  
も自分たちの活動のエキスとなります。開催時期  
はまだ未定ですが、9月以降を予定しております。

学芸職員部会の活動にご要望、ご意見がありま  
したらお寄せください。また、部会ニュースへの  
積極的な投稿をお待ちしております。

(学芸職員部会 矢吹 俊男)

動物園・水族館  
News

## 動物園・水族館の現状

日本には、主な動物園や水族館が加盟する(社)  
日本動物園水族館協会があり、現在、動物園97  
施設、水族館71施設が所属している。

全国の動物園と水族館を地域によって6個のブ  
ロックに分けており、北海道ブロックには5つの  
動物園と8つの水族館が所属している。

現在、その動物園・水族館は元気ですかと聞か  
れれば即座に「ハイ」とはいいかねる。

最近の少子化、一時の集客施設の建設ラッシュ、  
娯楽の多様化などによって、動物園・水族館の利  
用者も昭和49年ごろをピークに減少しつつあり、  
ここ2～3年の間に動物園や水族館が経営  
難から廃止したり、廃止する動物園を市民の要望  
により地方自治体が引き継いだりする例が増加し  
てきた。

いわゆる動物園・水族館の受難の時代が到来し  
ているからである。

昔から動物園や水族館の春は、動物たちのペビ  
ーラッシュから始まるという事にストーリーが決  
まっていたものである。ところが最近、子供が

生れても引き取り手が無いから不用意に繁殖させ  
られなくなった。この結果、夫婦を別居させる羽  
目になる。動物達には本当に申し訳ないと手を合  
わせつつ…。

こんな事が続けば、当然、出産を見たことも無  
い飼育員も出てきて飼育技術も落ちてくるという  
ことが懸念される。

しかし、北海道ブロックでは、毎年春と秋に飼  
育技術者の研修会を各動物園・水族館の当番制で  
実施し、技術の向上を目指している。

各園館で成功したり、失敗したりした事例を報  
告しあいながら、微に入り細にわたる質問攻めの  
結果様々な知識を貪欲に吸収して帰って来る。帰  
ってきた職員が何かしら自信に満ちて見えるから  
不思議である。

動物園・水族館も、今や入園者の数で評価され  
るレクリエーション施設から、我々人類が今しな  
ければ取り返しのつかない自然保護・種の保存や  
環境教育施設へと変わろうとしている。

とは言ってもまだ当分の間は、毎年の入園者数  
の増減で一喜一憂しなければならないのだろう。

本当に残念なことである。

(札幌市円山動物園 種の保存担当部長

鎌田 実)

## 新館オープン

## 倶知安風土館

## ●開館前夜

7月13日、倶知安風土館が開館しました。

倶知安に郷土館を作ろう、と倶知安郷土文化財保存会が設立されたのが昭和42年のことですから、実に30数年の月日を費やしての開館でした。

開館当日、何人もの方から「このような施設が出来るのを待っていたんだよ」「たまり場が出来た」と、声をかけられました。風土館作りにかかわってきたスタッフにとって元気が出る言葉でした。自然史系と人文系の学芸員がそれぞれの展示を分担しながら進めてきましたが、具体的な作業に入れば入るほど、力不足と資料不足を痛感すること



倶知安風土館全景

しきりでした。そんな学芸員を支えてくださったのが、近くの町内会の人たちでした。テーマに添った展示資料が部屋ごとに列品されるごとに、議論を重ね、資料に不足が生じると情報収集に奔走するのが町内会の人たちです。まさに『地元のことは地元の人に任せ』です。

## ●展示

建物の2階部分が展示室です。階段を上るとすぐに目に入るのが、床の大半に貼りめぐらされた羊蹄山麓から日本海まで捉えた5000分の1の航空写真です。自分たちがどのような環境のもとで生活しているのだろうか、を空から眺めて確かめることをねらいとしました。この土地の多くの人はこの場所でたいてい自分の家探しから始まります。そしてとなりの町や村に移動します。平成13年の夏に撮影した最新の航空写真で、データのすべては風土館で保管しています。自然史展示はワンフロアで、羊蹄山、ニセコ山系の自然を大きなテーマとしています。そして「自然のいとなみ」(環境や生態系の意味を理解する)、「自然にひ

そむ危険」(刺す、噛む、かぶれる、毒を持つ生物たちを理解する)、「倶知安の雪」(倶知安の特徴の一つの豪雪を理解する)などの3つの小テーマで自然のしくみを理解してもらいます。植物学者桑原義晴さんの膨大な植物標本の一部を紹介する桑原コレクションの部屋では1ヵ月ごとに標本、写真、図版などを替えています。担当しているのは町の寿司屋さんです。人文展示室は建物の構造上



空から眺める一家探しに没頭する人たちー

の制約から6つの小部屋に分かれています。「むかしむかし」(スキーの変遷を歴史の軸とした通史)、「学校」(教室の一部を再現)、「あきなう」(商店の一部を再現)、「あ・そ・ぼーこの指とまれ」(少し前の子どもたちの遊びがうかがえる)、「すまう」(昭和30年代を基調とした住宅内部を再現)、「鉄道」(旧胆振線の資料を中心とした)などで、年代設定を概ね昭和30年代にしました。これは、おじいさんやおばあさん、おとうさん、おかあさん、そして子どもと親子三代の会話が生れる場所になって欲しいと考えたからです。

自分たちの施設として、地元の人たちが風土館に参加することが増えてきました。その姿はさまざまですが、それぞれの得意とすることから、かわりを持ってくださっております。少しずつですが「人と情報のたまり場」になってきました。

所在地：北海道倶知安町北6条東7丁目

TEL0136-22-6631/FAX0136-22-6632

観覧料：一般200円(団体10名以上100円)、高校生以下は無料、小川原脩記念美術館観覧の場合は無料

休館日：毎週火曜日(祝日は翌日)、年末年始(12/31~1/5)

開館時間：9:00~17:00

(倶知安風土館 館長 矢吹 俊男)

## 館・園の主な展覧会と普及事業

(2002年11月～2003年3月)

### 石狩

- 札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)  
12月～1月、季節展示「サケの赤ちゃん誕生」
- 北海道開拓記念館 (011-898-0456)  
11.30、博物館講座「博物館と学校教育の連携について」、12.8、講習会「絵馬をつくる」
- 北海道開拓の村 (011-898-2692)  
1.25・2.22、講座「開拓期の農村①②」
- 北海道立文学館 (011-511-7655)  
11.2～12.1、企画展「谷川俊太郎展」
- 北海道立近代美術館 (011-644-6881)  
12.18～1.26「アミューズランド2003」

### 渡島

- 知内町郷土資料館 (01392-5-5066)  
3.12、講座「大野土佐日記と知内の歴史」
- 北海道立函館美術館 (0138-56-6311)  
11.3～12.22、特別展「道南の書の歩み」

### 檜山

- (財)海洋丸青少年センター(01395-2-5522)  
2月、講習会「帆船をつくる」

### 後志

- (財)荒井記念美術館 (0135-63-1111)  
12.15まで、企画展「生まれ出づる悩み展」
- 有島記念館 (0136-44-3245)  
12.7「有島童話祭」
- (財)北一ヴェネツィア美術館 (0134-33-1717)  
3.16まで「ゴッホモザイク展」
- 木田金次郎美術館 (0135-63-2221)  
11.1～3.29「Fの風景」
- 黒松内町ブナセンター (01367-2-4411)  
1.26・2.16・3.16「ブナセンター講座」
- 西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)  
2.8「油彩画体験講座」

### 空知

- 砂川市郷土資料室 (0125-52-2339)  
2.1～2.29「昔の道具・今の道具」
- 美唄市郷土史料館 (01266-2-1110)  
2.1～2.23「七宝工芸展」

### 上川

- 旭川市青少年科学館 (0166-22-4171)  
1.11～1.12「科学探検広場」
- (財)旭川兵村記念館 (0166-36-2323)  
年度末まで「加藤建夫隼戦闘大隊展」

- 士別市立博物館 (01652-2-3320)  
11.14～11.30巡回展「街のうつろい」
- 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)、12.22～1.26「彫刻美術館を描く展」
- 名寄市北国博物館 (01654-3-2575)  
11.9、講座「寒冷地における食料保存の歴史」
- 中川町エコミュージアムセンター (01656-8-5133)、常設展「中川の化石と歴史」

### 留萌

- 留萌市海のふるさと館 (01644-3-6677)  
2.16「観察会まとめ会」、3.30「巣箱掛け」
- 北海道海鳥センター (01646-9-2080)  
12月中旬「わらの民具体験教室」

### 網走

- 遠軽町郷土館 (01584-2-5942)  
2.15・2.22・3.1「郷土館講座1～3」
- 美幌博物館 (01527-2-2160)  
12.5～1.26「寄贈美術資料展」
- 北海道立オホーツク流氷科学センター (01582-3-5400)、2.25「ホワイトコンサート」
- 北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)  
2.16、講座「レザーとファー」
- 上湧別町ふるさと館JRY (01586-2-3000)  
11.3「文化シンポジウム」

### 胆振

- 苫小牧市博物館 (0144-35-2550)  
2.1～3.16「博物館所蔵優品展」
- 登別市郷土資料館 (0143-88-1339)  
1.9～10「冬休み工作教室」

### 日高

- 新冠町郷土資料館 (01464-7-2694)  
12.20、講座「日高山脈の成り立ち」
- 日高山脈館 (01457-6-9033)  
3.16、ネイチャーセミナー「北方の自然」

### 十勝

- 神田日勝記念館 (01566-6-1555)  
11.12～1.19、企画展「革命の証としての馬」
- 北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)  
1.31～3.26「絵本原画の世界展」

### 釧路

- 釧路市立博物館 (0154-41-5809)  
1.15「化石レプリカ教室」
- 北海道立釧路芸術館 (0154-23-22381)  
12.3～1.13「第36回現代美術選抜展」

### 根室

- 標津サーモン科学館 (01538-2-1141)  
11月「シロザケの産卵行動観察会」